

## 26年2月分

## 製品市場の荷動き・価格先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成26年 1月20日～ 26年2月10日

## 2. 調査実施方法

全国の製品市場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。  
2月分の回答企業数は6社である。

## 3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2  
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

## 4. 調査結果の概要

## (1) 荷動き動向 Weight. D. I.

品目		26/2月	3月	4月
入荷動向	国産材製材品	25.0	33.3	58.3
	外材製材品	0.0	△ 8.3	△ 10.0
	その他	0.0	10.0	10.0
販売動向	国産材製材品	0.0	0.0	△ 8.3
	外材製材品	△ 8.3	0.0	△ 25.0
	その他	△ 10.0	0.0	△ 30.0
在庫動向	国産材製材品	41.7	33.3	50.0
	外材製材品	8.3	0.0	0.0
	その他	0.0	0.0	0.0

国産製材品の入荷は増加傾向で推移、外材は2月の横ばいが3、4月には減少に、その他は横ばい。  
国産材製材品の販売は2月の増加が4月に向けて減少に、外材及びその他は2、3月の横ばいが4月には減少に。  
国産材製材品の在庫は増加傾向で推移、外材は2月の増加が3、4月には横ばいに、その他は横ばいで推移。

## (2) 価格動向 Weight. D. I.

品目		26/2月	3月	4月
スギ	柱角 KD10.5×3	8.3	△ 8.3	△ 25.0
	柱角 KD12×3	8.3	△ 8.3	△ 25.0
	通し柱 12×6	12.5	△ 12.5	△ 37.5
	桁角	8.3	△ 8.3	△ 33.3
	母屋角	8.3	△ 8.3	△ 33.3
	タルキ	8.3	△ 8.3	△ 33.3
	間柱	16.7	△ 8.3	△ 25.0
	加工板	20.0	0.0	△ 10.0
	ヌキ	16.7	△ 8.3	△ 16.7
	平割	16.7	△ 8.3	△ 16.7
ヒノキ	柱角 KD10.5×3	△ 16.7	△ 16.7	△ 33.3
	柱角 KD12×3	△ 8.3	△ 16.7	△ 33.3
	土台角 10.5×4	△ 8.3	△ 16.7	△ 33.3
	土台角 12×4	0.0	△ 16.7	△ 33.3
	通し柱 12×6	△ 10.0	△ 20.0	△ 40.0
カラマツ土台角10.5×4	0.0	0.0	△ 50.0	
米マツ平角	20.0	10.0	10.0	
米マツ割物	33.3	16.7	8.3	
北洋エゾマツタルキ	33.3	33.3	16.7	
北洋アカマツタルキ	20.0	20.0	10.0	

スギ製材品はいずれも2月のやや強保合が4月には弱保合ないしやや弱含みに。  
ヒノキ柱角、土台10.5角及び通し柱は弱保合ないしやや弱含みで推移、土台12角は2月の横ばいが3、4月には弱保合に。  
米マツ製材品は強保合ないしやや強含みで推移。  
北洋エゾマツ及び北洋アカマツタルキは強含みないし強保合で推移。

## モニターからのコメント

(荷動き)

- ・入荷は、スギ、ヒノキ製品についてグリーン材から入荷が少しずつ増えている。外材製品は品薄材が出てきており、今後減少傾向になりそう。販売は、国産材は在庫が少ない中、増加傾向、外材は実需があることから羽柄材中心に増加傾向。在庫は、入荷と販売のバランスが取れている。
- ・国産材は12月、1月に比べ入荷量増加、販売受注状況は1,2月と落ち着き始めてもいる。在庫は増加傾向。
- ・スギの入荷少ない、ヒノキはグリーン材が少ない。徐々に販売が少なくなっている。原木が出だして在庫も増えつつある。
- ・国産材丸太少ないも製材品は順調な入荷、WWは寸法により少ないものあり、アカマツは順調な入荷。スギ及びヒノキ柱は動き少ない、ヌキ、胴縁及びタルキに動き、米ツガ単価引き上げも製品の動き変わらず。東北材の入荷増加、円安になり仕入れ強化。スギ製材品は間柱KD材少ないが、それ以外は東北材の入荷順調。ヒノキ柱、土台は動き少ない、米マツ製材品は大手メーカーが値上げ。
- ・市開催毎に少しずつスギ、ヒノキの入荷量が増し、ピークは終わった模様。外材、集成板、加工板は必要量しか入荷せず在庫、単価とも変動なし。

(製品価格)

- ・スギ柱角(KD)は少ない中、入荷も増加傾向。スギ桁・母屋格において少しずつ増加傾向。スギ羽柄材は東北での生産量は原木不足や雪により減少している。ヒノキ製品はヒノキ柱角KDについては、入荷が増えている。4m土台角はまだ少ない状況。ベイマツ製品は、実需があるので順当に販売。価格も為替の影響から上昇中。北洋タルキは、羽柄材タルキとして量的にも安定販売されている。今後値上げも予定されえている。
- ・ヒノキの品薄、単価上昇は止まり、今後は下げの局面へ、下げ幅はまだ不明。
- ・スギ柱、桁はKD柱、同間柱のみ暫く入荷不足続きそうで単価も値下がりになる気配なし。同母屋、タルキ、加工板、ヌキ及び平割はスギ丸太供給増加し、需要減少進み生産調整しないとまた価格暴落の可能性がありグリーン材量産工場の動きに注目。ヒノキ製材品については、九州各地の素材市場で年初から値下がり傾向、プレカットが必要量の確保終わったようで一足早く落ち着く見込み。